

舞踊主題と音楽に関する一考察

高橋るみ子

1. 目的

ダンス作品を創作する際、「音楽」を選び使用するにあたって、大別すると、次のような三つの手順を上げることができる。

- 1) 「音楽」を決定してから、その音楽にふさわしい「主題」・「動き」を考える。
- 2) 表現したい「主題」のイメージから「音楽」を選び、その後「動き」を考える。
- 3) 表現したい「主題」のイメージから「動き」を考え、その動きにふさわしい「音楽」を選ぶ。

それぞれの手順は、また、『ダンス表現・学習指導全書』編著者代表松本千代栄（大修館書店）での「初歩的段階」「基本的段階」「すすんだ段階」であると言っても良いのではないだろうか。何故ならば、1)の手順は、音楽が作品づくりの動機となっている点で初心者向きであると思えるし、2)の手順は、早い時期に音楽を決定することによって動きのイメージがわきやすくなる点で、ややすんだ段階に向いていると思えるからである。当然、3)の手順は、ダンスの作品づくりの経験を多く有する段階に向いていると思われる。

そこで上記の事項を踏まえて、

- 課題学習（運動課題・イメージ課題・群・構成の課題）に続く作品づくりに於いて、「音楽の決定」が、作品づくりの過程にどのような影響を与えているか。
- 作品づくりの中で生徒が持ち寄った多様な音楽をまとめ、指導者が提供する学習資料の一つにする。

という二つの意図のもとに、学習計画をたて、創作学習を実施する。

II. 対象と方法

対象は、県立川越女子高校3年生とし、週一時間、通年の中で、二学期を作品づくりに当てることにした。

58年度は、上記3)の手順で、6クラス（約250名）を対象に、構造力をもち、さらに多様化の性質をもつと思われる課題「夢」を提示し、8～12人のグループによる作品づくりを実施した。

また、59年度は、上記2)の手順で、3クラス（約140名）を対象に、同じ課題で作品づくりを行な

い、両年度の作品づくりの進み方を比較した。

さらに、58年度の生徒作品から「主題 — 動き — 音楽」の関係をまとめ、59年度に生徒が持ち寄った音楽も追加して参考資料として提示した。

III. 結果と考察

〔図1〕より、58年度は、「動きの出し合い、主になる動き、全体のはこび」の後に「音楽の決定」を指導したにもかかわらず、結局、「音楽の決定」の後ではないと動き出せず、音楽の持つイメージの助けを借りる形になっている。逆に「音楽の決定」後は急ピッチに作品づくりが進み、朝・放課後の自主練習を経て作品を完成させている。そして、多数のグループが選んだ音楽は、現在流行している曲や、小さい頃から慣れ親しんだ曲が目立ち、これは、今さらじっくり耳を傾けずとも、グループ全員がよく知っている曲ならば、短時間に動きをつけやすいと思われる。少数のグループは、指示どおり、「主題の決定・発想の出し合い」の後に動き出し、でき上がった動きに「音楽」をつけたが、動きにふさわしい曲がなかなかみつからず苦勞していた。しかし、一つの曲の全体の統一を崩さない程度に繰り返しを省いたり、一部のテンポを変えたり、何小節か他の曲を追加したりといった工夫をすることで、主題から持ちこたえた動きを変えることなく作品を完成させていた。

59年度は、〔図2〕でもわかるように、「音楽の決定」を第3次に計画し、さらに第2次の宿題として、グループ毎に決定した主題にふさわしいと思われる曲を、各自が選択し持ち寄ることにした。そのためか様々な曲が集まり、広範囲の中から主題にあった音楽を選ぶことができたと思われる。ただし、「主題」と曲の題名が一致するからといった点で選択されていた曲も多かった。また、音楽の構造に頼りすぎたり、主題を忘れて曲の振り付けに終始したグループもみられた。しかし、順調に動きが出て、全体のはこびができ上がっていくためか、昨年のような作品の完成に対する不安の声はほとんどなかったようである。それでも授業内での「踊り込み」は無理で、結局、今年度も、朝と放果後の自主練習に頼らざるを得なかった。

今年度作品づくりが順調に進んだ原因の一つに「動機づけ」の成功も上げておきたい。「夢」という課題のもつイメージを、指導者とともに動くことによって「動機づけ」を行なった58年度に対し、59年度は、先輩の作品を実際にビデオで見たため、自分達もいい作品をとる意欲が第二次より見受けられた。

IV. まとめ

以上、「夢」という課題での作品づくりに於ける「音楽の決定」の影響を、二年間の実際の授業

58年度の学習計画と実際〔図1〕

	1	2	3・4・⑤	6	7	8	9	
学習計画	役割分担 グループビンゴ 動機づけ	全体のみとおし 主題の決定 発想の出し合い	主になる動き 動きの出し合い	定 音楽・衣装の決	練習 全体を通しての	踊り込み	発表会 (クラス別)	鑑賞(ビデオ)
実際	役割分担 グループビンゴ 動機づけ	発想の出し合い	主題の決定	全体のみとおし	音楽の決定 全体のはこび	動きの出し合い	発表会 (クラス別)	鑑賞(ビデオ)

59年度の学習計画と実際〔図2〕

	1	2	③	4・5	6	7	8	9
学習計画	品(ビデオ) の生徒作 動機づけ	主題の決定 役割分担 グループビンゴ	音楽の決定	主になる動き 動きの出し合い	練習 全体を通しての	踊り込み	発表会 (クラス別)	鑑賞(ビデオ)
実際	品(ビデオ) の生徒作 動機づけ	主題の決定 役割分担 グループビンゴ	音楽の決定	主になる動き 動きの出し合い	全体のはこび	練習 全体を通しての	発表会 (クラス別)	鑑賞(ビデオ)

の結果を比較することで探ってきたが、受験校であるわが校で、三年生を対象に作品づくりをする場合、「音楽の決定」をなるべく早い時期にもっていくことは、生徒らの気持ちに負担をかけない点でも、有効な手順であると言える。ただし、「動きの出し合い」の前に音楽を決定してしまうと、音楽の影響を強く受けすぎる事もある。動きを出し合って、全体のみとおしをたてやすくするという目的で「音楽」を選び、「全体のはこび」がで

き上がった時点で、さらに音楽を工夫させる指導が、問題を解決してくれるのではないだろうか。

補足；58年度、59年度の作品から「主題 — 動き — 音楽」の関係をまとめた学習資料は、紙面の都合上割愛させていただきます。また、当考察を書くに当って、温かく見守って下さいました松本千代栄先生に感謝の意を表し、この考察を終わりといたします。